


分野	51	環境共生	<b>通番 122</b>
施策	512	生活環境の保全	
<b>5年後の目標</b>		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>環境監視事業</b>		会計	款	項	目	3,547,799	環境政策室
			一般	4	1	7		
事業の概要								
大気・水質・騒音・振動等の状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。								


平成30年度の取組							
D (取組)	指標	小畑川、小泉川の透視度:30cm以上、BOD:2mg/ℓ以下、PH:6.5~8.5の維持状況				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	(小畑川(井ノ内橋))透視度:27cm BOD:1.1mg/ℓ PH:7.9(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.7 (平成26年度)	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
		実績	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm BOD:0.7mg/ℓ PH:8.0(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.8(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.8(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:8.2		
<ul style="list-style-type: none"> <li>大気、水質、騒音、振動等を委託及び自主検査により実施しました。</li> <li>大気調査は67か所で調査を実施し、環境基準と比較しました。</li> <li>地下水及び河川の15か所で水質の調査を実施し、環境基準と比較しました。指標となる小畑川、小泉川の状態については基準を超過することなく良好でした。</li> <li>騒音調査では、環境騒音及び自動車騒音で31か所の調査を実施し、環境基準と比較しました。</li> <li>調査で得られた結果は、国や京都府などに報告するとともに関係部署にも提供し、情報共有に努めています。</li> </ul>					<b>小泉川の様子</b> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価			
平成30年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド 対応頁
		小畑川・小泉川の主要河川水質指標	PH値(水素イオン濃度)6.5~8.5、BOD(生物化学的酸素要求量)2mg/ℓ以下のため水質は良好です。 209
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気調査は環境基準の超過はありませんでした。</li> <li>農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められましたが、地質といった自然由来のものにより超過することがあります。</li> <li>河川のうち6か所で水素イオン濃度・BOD(生物化学的酸素要求量)・全亜鉛のなかの一部の値が一時的に環境基準を超過していました。超過原因としては水温・工場ならびに家庭からの排水等が一時的に大量に流れ込むことにより、環境基準を超過することがあります。</li> <li>騒音調査では3か所で一時的に環境基準を超過していました。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境に大きな影響が出ないよう、環境基準に照らし合わせながら市民、事業者等に対し、継続的に環境保全の理解を求めることが必要です。</li> <li>環境項目を超過した項目がある地点について、環境影響の点から経過観察が必要です。</li> </ul>	

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全意識向上のためにも関係する機関と協力しながら、市民、事業者等への環境保全に対する理解を求めていく必要があり、今後も継続して生活環境保全のための監視・指導を行います。</li> <li>大気、水質、騒音、振動等について環境基準をもとに適切に評価を行います。</li> <li>環境基準を超過した項目については、京都府や関係部署にも報告を行い、情報共有をしながら引き続き監視を続けます。</li> </ul>

分野	51	環境共生	<b>通番 123</b>
施策	512	生活環境の保全	
<b>5年後の目標</b>		大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>環境都市宣言啓発推進事業</b>		会計	款	項	目	4,040,240	環境政策室
			一般	4	1	8		
事業の概要								
環境フェア等の実施を通じて、市民の環境活動への参加を促し、“環境の都”長岡京の実現のため取り組みを進めます。 また、西代里山公園を拠点に、環境活動団体がつどい、協働による環境まちづくりを進めます。								

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	環境フェアへの参加団体・企業数				単位	団体
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	32	33	34	34	34
	31(平成26年度)	実績	34	34	35		
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年11月17日に第10回環境フェアを開催し、約1,200人の来場がありました。</li> <li>スペースひっ迫の課題については、できるだけ団体・企業が今後も継続して関わっていただけるよう、限られたスペースで団体・企業の意向ができるだけ反映できるよう調整を行いました。</li> <li>環境都市宣言にある「持続可能な社会」を実現すべく、第10回となる環境フェアを「COOL CHOICE」の啓発事業と位置付け、各出展ブースでCOOL CHOICEの啓発を行っていただきました。</li> <li>国民運動である「COOL CHOICE」を、環境フェアだけでなく、多様な手法で市民へ啓発することで、環境の都長岡京の実現を目指しました。具体的には、市民目線での啓発冊子の作成、公共交通の利用促進、地産地消の推進、地元商店への啓発、教育教材の作成などです。</li> <li>これらCOOL CHOICEの啓発事業に先駆け、本市としての決意を新たにするため、4月17日、市長によるCOOL CHOICE宣言を行いました。</li> </ul>				環境フェア			
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度を上回る来場者数があり、環境イベントとして環境フェアの認知度が上がってきたものと考えます。</li> <li>出展団体からは、来年の開催日の確認や、ブースでできることの内容の確認など、出展に対し前向きな質問を多数いただいております。今後も目標数の団体・企業に参加いただけるものと考えます。</li> <li>環境都市宣言から10年目の事業として行ったCOOL CHOICE啓発事業において、賛同者を募る取り組みを行い、最終的に21の団体賛同、889の個人賛同をいただきました。</li> </ul>	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境フェアへの参加団体・企業数は既に目標数に達しているものの、スペースに限りがあり、新たな団体・企業の受け入れが困難な状況となっています。</li> <li>限られたスペースで、集客のためのいかなる工夫ができるかが課題です。</li> </ul>	

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標数には既に到達しており、環境イベントとしての認知度も一定上がってきたものと考えられることから、今後も計画通りに本事業を推進する中で、さらなる集客・啓発ができるよう、団体や会場の施設管理者と調整することで、限られた条件下で最大の効果が得られるようにします。</li> </ul>